

会 議 録

平成 27 年 12 月 14 日 調製

審議会等名	平成 27 年度 第 2 回 図書館協議会
公開の別	全部公開
開催日時	平成 27 年 11 月 27 日 (金) 午後 2 時～3 時 35 分
開催場所	三条市立図書館 2 階 視聴覚室
傍聴者の有無	無
出席者氏名	<p>【協議会委員】</p> <p>五十嵐章雄委員長 倉品章副委員長 横田真由美委員 鶴川直美委員 唐田佳文委員 宮島泉委員 六原佳子委員</p> <p>【説明のための職員】</p> <p>長谷川生涯学習課長 金子生涯学習課長補佐 佐藤生涯学習課係長 伊藤生涯学習課主任</p> <p>【指定管理者】</p> <p>高須館長 菊崎業務責任者 竹内副責任者 村山副責任者 菅谷 (本社社員)</p>
協議題	<p>(1) 平成 27 年度 4 月以降の利用状況について</p> <p>(2) 第 3 次三条市子ども読書活動推進計画について</p> <p>(3) その他</p>
生涯学習課長	(あいさつ)
五十嵐委員長	協議題(1)「平成 27 年度の図書館利用状況」についての説明を求めたい。
図書館長	(「平成 27 年度 4 月以降の図書館利用状況」について説明)
五十嵐委員長	いつもながら努力している姿勢を評価したい。ただいまの説明について、質問や意見のある方は挙手をもって発言してください。
宮島委員	資料No.1 の利用状況を見ると、これまで前年からのマイナスが目立っていたが、本年度は良い状況にある。そこで、昨年度の資料を確認したところ、昨年度までの項目名で貸出者数となっていたのが利用人員に、貸出冊数となっていたのが利用冊数となっている。このように項目名を変更したことに何か意味があるのか。
図書館長	項目名を変えただけで、集計対象や方法を変えたわけではありません。
宮島委員	この項目名の方が、印象が良いと思った。 登録者数、利用人員、利用冊数を一般と子どもに分けているが、何歳までを子どもとしているのか。
菊崎業務責任者	12 歳までを子どもとしている。
六原委員	資料No.2 の自動車文庫利用数について、一般と子どもの他に団体とある。定期的に巡回している所だと思われるが、現在何件あるのか。
竹内副責任者	自動車文庫の巡回先のうち団体扱いで貸出を行っているのは、高齢者介護施設と総合病院の 2 か所がある。それらの施設では個人でも借りることができるが、

	施設で登録している団体カードを使っでの貸出も行っている。
六原委員	そのような対応もしていることを案内しているのか。
竹内副責任者	春先に、例年巡回している訪問先に引き続き同じ要領で巡回するか意向を確認して毎年継続している。
六原委員	巡回先を新たに開拓することはないのか。
竹内副責任者	要請を受けるとスケジュールなどを勘案して検討するようにしている。
六原委員	小学校に団体カードを使った貸出は行っていないのか。
竹内副責任者	小学校は、子どもごとに持っている利用カードで個人貸出を行っている。
六原委員	小学校は全て巡回しているのか。
竹内副責任者	図書館本館から離れた地域にある 15 校を巡回している。
五十嵐委員長	協議題(2)「第3次三条市子ども読書活動推進計画」の説明を求めたい。
佐藤係長	(「第3次三条市子ども読書活動推進計画」について説明)
五十嵐委員長	ただいまの説明について、質問や意見のある方は挙手をもって発言してください。
六原委員	<p>県が第3次計画の作成を延長したので三条市も延長したということだろうか。「県がしないから、三条もしません」という安易な考え方ではないと思いたい。第2次計画を作った時から状況はスピードを上げて変わってきていると思う。現場の子どもたちは、スマホなどの影響で読書する状況ではなくなって来ている。子どもが物語に触れる機会をもっと作って行くことが喫緊の課題だと思う。計画を立てないとやらないというのではなく、出来る事からやるのが一番ではないか。現在の子どもたちの状況に危機感を持ってもらいたい。</p>
倉品副委員長	<p>配布された資料「三条市子ども読書活動推進計画」の3ページにある幼児の保護者に向けたアンケートで、「お子さんは本（読書）が好きですか」との問いに対して、「好き」との回答が48.6%となっている。第2次計画の基本方針の一番大事なこととして、『「本で楽しい！」をどの子にも』を挙げて頑張ってきたが、結果は50%以下となっている。他の市町村の状況を詳しく見ていないが、かなり低い数字だと思う。こういった現実を見て、どう分析するかを考えて行かないと次に打つ手が出て来ない。第2次計画を3年延長するとのことだが、中間的に分析して、「あと3年、これを」というものを具体的に示したほうが、子どものためになるではないか。</p> <p>また、「お子さんに本を読んであげる時間は1週間にどれくらい」との問いに、1回と2回と回答した割合が示してあるが、他に0回とか3回とかの回答もあるのではないかと感じる。感覚的に捉えていたことが数値で示されて、かなり少ないことに驚いている。もう少し詳しく詰めて行く必要があると感じた。</p>
伊藤主任	<p>アンケートの設問は週1回から毎日までの7項目として調査したが、今回配布した資料には回答の割合が上位のものを記載した。</p> <p>本を読む子と読まない子の差が広がり二極化している。この現状に対する基本的な方向として、本は楽しいと思ってほしいことと、本を読むことによって生きる力を育てていただきたいという思いは、この後の3年間も変わらないと考えて</p>

	<p>いる。この5年間で取り残したことがあることも含めての延長だと思っている。</p> <p>これから3年間、これまでの数値を踏まえて見て行く中で新しい課題が出て来たりするのではないか。また、今後スマホへの対策や点字書籍に関する国や県の考え方が少し明確になって来ると思う。現在、それらが不確定な状態で5年間の計画を作ると、途中で齟齬が出て来てしまう恐れがある。学校図書館のデータ化をはじめ長期的な目で検討する課題があることも踏まえて延長ということにした。</p>
長谷川課長	<p>第2次計画の進捗を確認する指標として挙げた13項目のうち、策定時の実績を下回っているものが6項目ある。あと3年間、いろいろなことにチャレンジをしながらマイナスとなっている項目の数値を是正して行きたい。学校図書館や学校図書館司書については教育委員会と一緒に取り組む課題であり、それなりの予算や協議が必要だと考えている。今後、国がどのような方策をとるのか、他の自治体がどのように取り組んでいるのかを逐一検証しながら、子どもたちが本に帰って来るように手を打って行きたい。</p>
五十嵐委員長	<p>資料「三条市子ども読書活動推進計画」の3ページにある幼児の保護者に向けたアンケートで、「お子さんに本を読んであげる時間は1週間にどれくらい」との問いに対して「10分以下」と回答した割合について、平成17年度は約4割だったところ平成27年度では約6割に増えている。課題となる事項には網掛けして示しているが、この事項は網掛けしていない。</p>
伊藤主任	<p>網掛けするべきでした。また、「お子さんとの絵本時間はいかがですか」との問いに対して「10分以下」と回答した割合も増えている。これも網掛けするべきでした。いろいろな情報が発達する中で、お子さんとの絵本時間を楽しいと思ってもらう機会を増やして行くことが大事だと思っている。</p>
五十嵐委員長	<p>第2次計画の策定に関わったものとして、苦勞して作った経緯もあり良く出来ていたのだなどの思いがある。具体的なところで工夫を加えながら、もう3年現行の計画を活用し、県の方針が出てきたあたりで新しいところを考えてもらいたい。スマホなどの電子機器の使用により読書の時間が少なくなっていることをはじめ、課題は幾つか出て来ているので、その辺を考慮しながら推進してもらいたい。</p>
五十嵐委員長	<p>協議題(3)「その他」の事項で、他に何かご意見や通知などがあれば発言ください。</p>
図書館長	<p>(図書館長から、よりよい図書館サービスを目指した取り組みについて説明)</p>
五十嵐委員長	<p>ただいまの説明について、質問や意見のある方は挙手をもって発言してください。</p>
六原委員	<p>図書館の職員は一生懸命やっていて努力もしている。おはなし会をする際も協力してもらい助かっている。そのような中で辞めて行かれる職員がいる。そこで、利用する側も働く職員も、楽しんで働いたり利用したりできる図書館になって行ってもらいたい。サービスの向上も大事だが職場環境も大事なのではないかと考えている。</p>
五十嵐委員長	<p>他に意見や感想のある方は挙手をもって発言してください。</p>

鵜川委員	先日、保育所向けの図書館利用案内を図書館長に直接届けてもらった。早速、玄関に掲示したうえ子どもたちに図書館のことを知らせるために配布した。
図書館長	現在、保育所や保育園向けの図書館利用案内を用意して配布することに取り組んでいる。ご協力いただける方を広げて行くことで図書館を盛り上げていただきたいとの思いでいる。
唐田委員	玄関のフロアマットを新しくしたとか傘立を整理したとの話があったが、サービス業に従事した経験がある者からすると、今になってやっと始めたのかとの思いを持った。人材育成にも取り組んでいるとの話があったが、サービス業の専門家からレクチャーを受けて、図書館業務に反映させることを考えた方が良いのではないか。
宮島委員	いま発言があったサービスについての意見は本当にもっともだなと思う。ただし、図書館は文化を発信し育てて行く場所であるという意識も持ってほしい。そのために職場環境も良いものであってほしい。やりがいのある素晴らしい職場であってほしいと思っている。いろんなことをされていて、忙しそうだなという気持ちで見ている者も多い。大変よくやっていると思うが、文化の担い手であることも忘れないようにしてほしい。
五十嵐委員長	これをもって、平成 27 年度の第 2 回図書館協議会を閉会とする。